2004（平成16）年1月31日

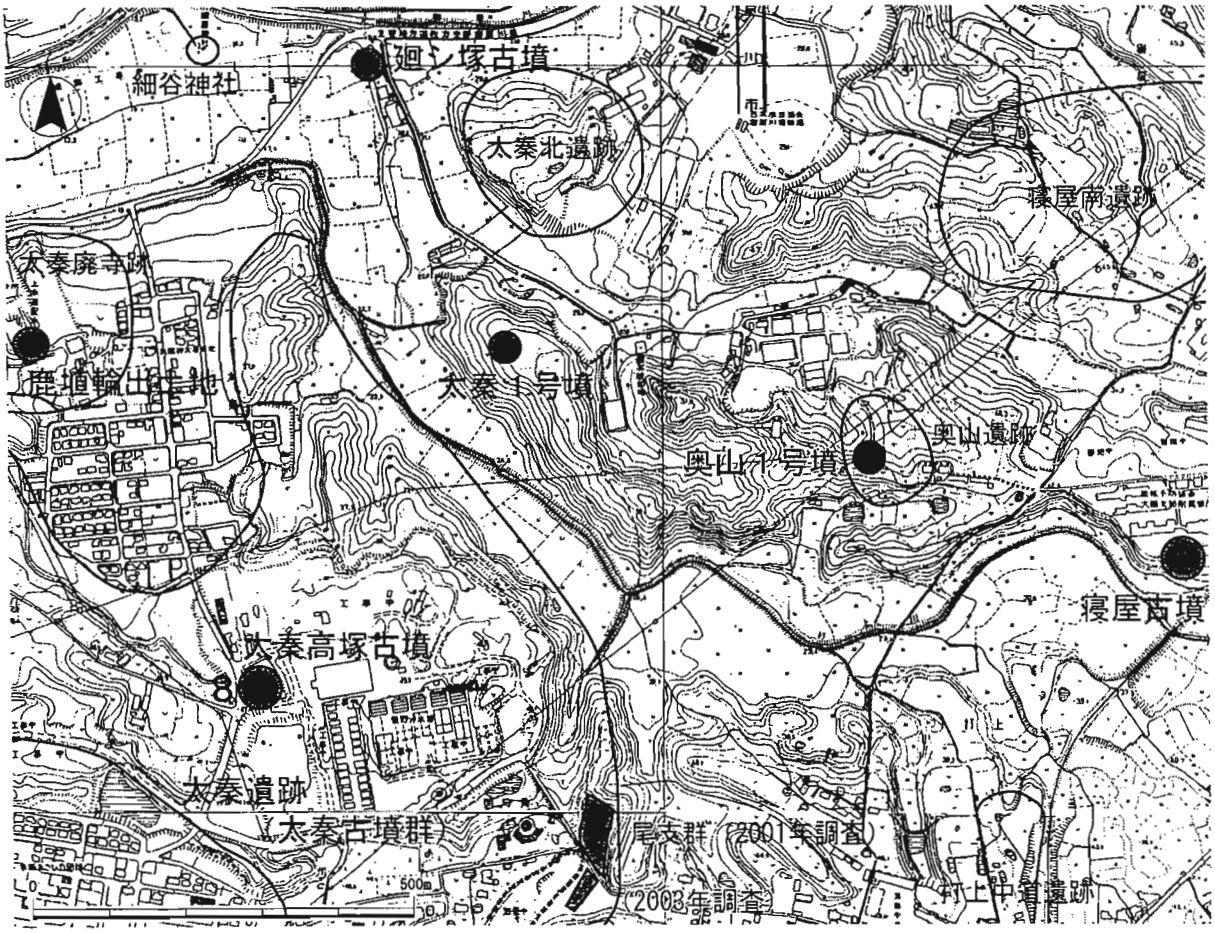
# 奥山遺跡（奥山１号墳）現地公開資料

財団法人　大阪府文化財センター

## はじめに

この調査は「緑立つ道」（第二京阪道路及び大阪北道路）建設に先立って行われたものです。周辺には北河内最大の横穴式石室をもつ寝屋古墳、埴輪列がめぐることが確認された太秦高塚古墳、また７世紀中葉の集落跡である寝屋南遺跡など多くの遺跡が分布していることから、平成 14 年 12 月から平成 15 年３月にかけて、道路予定地内において遺跡の広がりを調べるための事前の確認調査が実施されました。その際、寝屋川公園の芝生広場西側のこの場所から、黒褐色の土で埋まった溝と、その中から多くの土器が確認されました。溝の形や土器の年代から、この遺構は古墳である可能性が高いということになり、あらためて平成 15 年８月から本格的な埋蔵文化財調査が行われることとなった訳です。

なお、遺跡の名前は、この場所の「奥山」という小字名をとって「奥山遺跡」、見つかった古墳は「奥山１号墳」と命名されることとなりました。



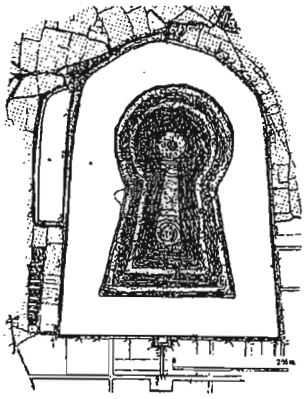

周辺の古墳および遺跡分布図

# 古墳を発見！

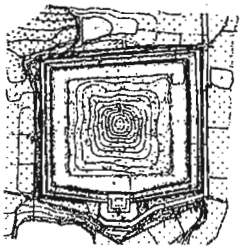
古墳とは土を高く盛り上げて築いた古墳時代のお墓のことをいいます。確認調査の所見どおり、丘陵のもっとも高いところから一基の古墳（奥山１号墳）が見つかりました。確認調査で発見した溝は、この古墳の周りに掘られた溝だったのです。なお、周りの調査も行いましたが、調査範囲内からは、この奥山１号墳一基だけが確認されました。

## 古墳ってどんな形？

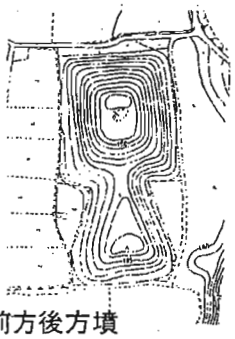
古墳の形にはカギ穴のような形をした「前方後円墳」や、四角い「方墳」など様々な形があります。この奥山１号墳は「円墳」と呼ばれる丸い形をしています。ただしこれは上から見た形で、横から見るとすり鉢をひっくり返したような形になります。古墳の直径は約 18mありますが、周りには溝がめぐっており、この溝まで含めると直径約 25mにもなります。高さについては本来５mくらいはあったものと思われますが、竹林の造成などによって上部が削られてしまっているため、現在では 1.4mほどしか残っていません。



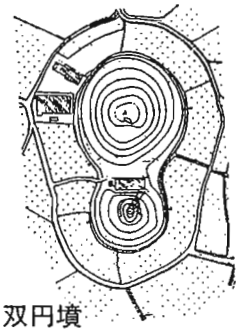
前方後円墳
（堺市：履中天皇陵）



方墳
（太子町：用明天皇陵）

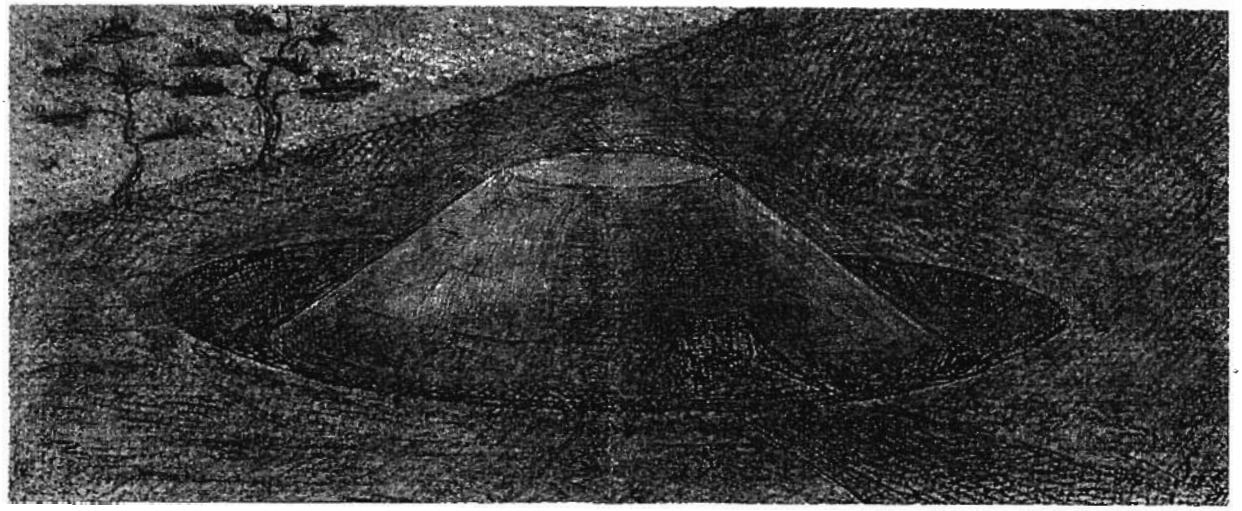


前方後方墳
（栃木県：上侍塚古墳）



双円墳
（河南町：金山古墳）

いろいろな形の古墳

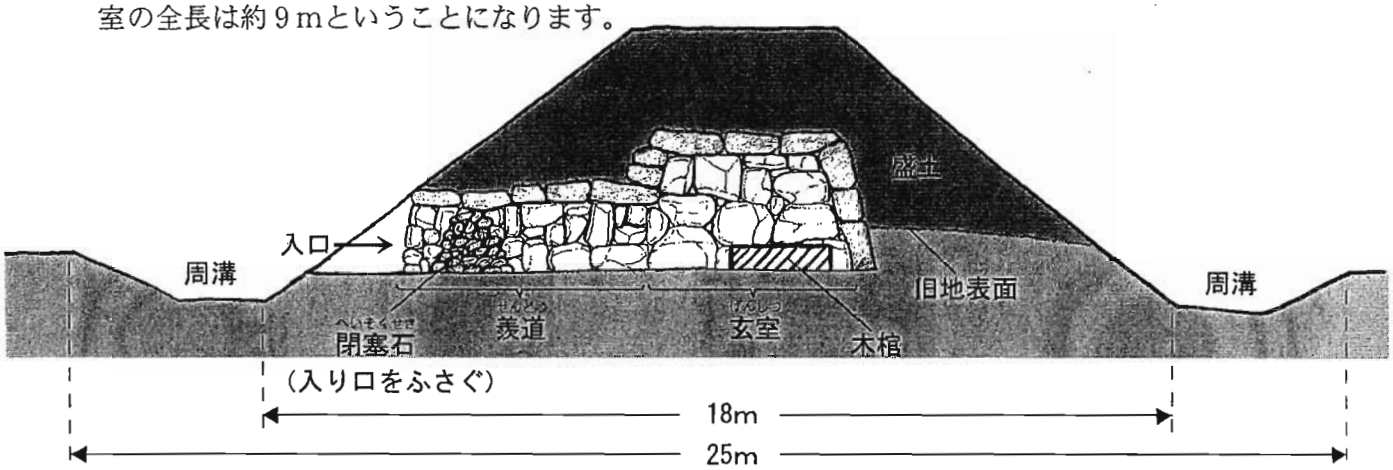


円墳のイメージ　―円墳ってこんな形！―

## 遺体はどこに？

古墳の土の中に「横穴式石室」と呼ばれる石の部屋を築きます。この石室は羨道と呼ばれる通路と、玄室と呼ばれる棺をおさめる部屋からなっています。羨道にも玄室にも本来は天井石がのりますが、この奥山１号墳は盗掘や竹林造成によって破壊されており残っていません。基本的に遺体は棺（奥山１号墳の場合は木の棺）におさめられ、玄室に葬られることになりますが、横穴式石室は構造的に追葬が可能なため、遺体の数が二体、三体・・・・と次第に増えていくことがあります。その場合は、玄室に入りきらず、羨道部にもはみ出すようなことになります。実際、この奥山１号墳も、羨道部にはみ出すように、いくつもの遺体が葬られていたようです。

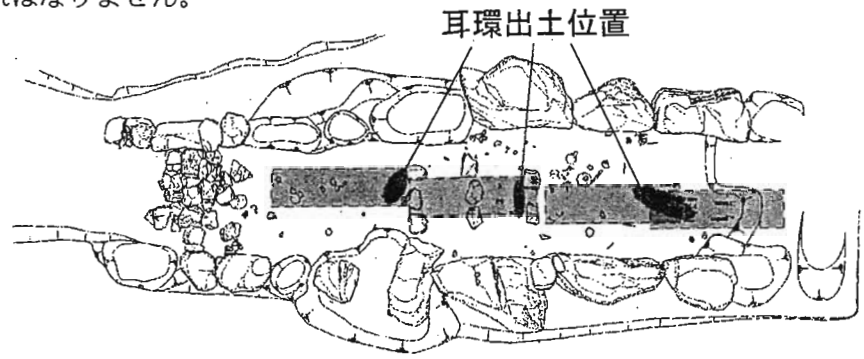
なお、奥山１号墳の玄室は、幅が約 1.7m、長さは奥壁が残っていないのではっきりとしませんが、復原すると４m強になります。羨道は幅約 1.4m、長さは約 4.9mあります。したがって石室の全長は約９mということになります。




横穴式石室断面模式図

## 遺体は何体？

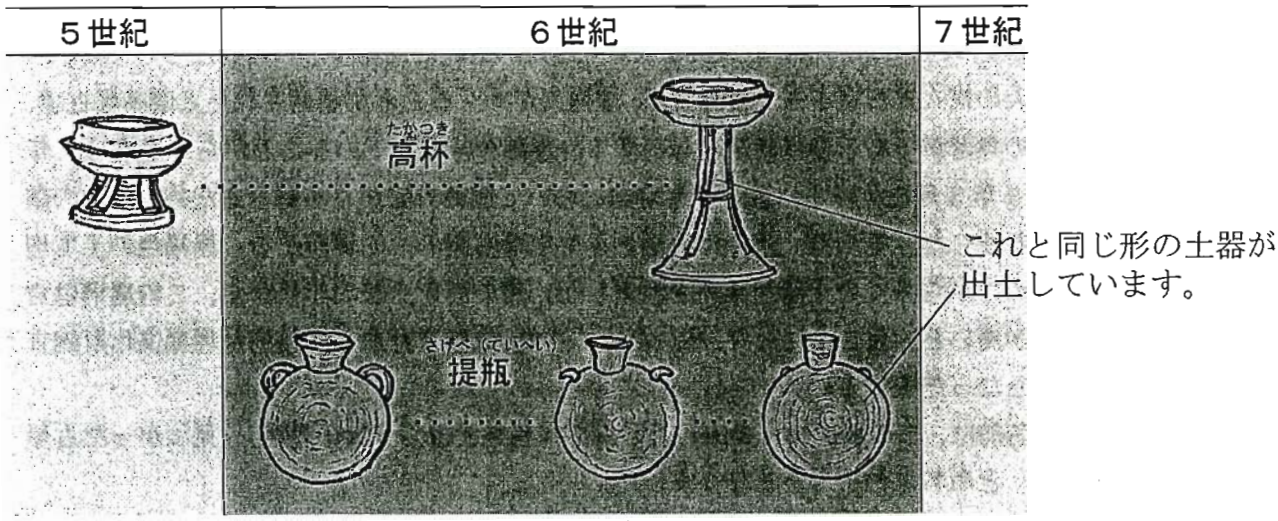
玄室から羨道にかけてアルファベットの「C」の形をした耳環が 11 個も出土しました。１人が２個ずつ着けていたとすれば、５人から６人が埋葬されていたことになります。その出土位置をみてみると、大きく３ヶ所に分かれていることから、棺が置かれた位置は、少なくとも３ヶ所、ないしは４ヶ所であったことが読み取れます。また玄室の奥から人骨が出土していますが、これは１人分の骨ではなく、少なくとも２人分の骨であることが、専門の先生に見ていただいてわかっています。今後どの位置にどのように、またどの順番で葬られていったのかを詳しく検討していかなければなりません。




木棺推定位置

### いつ頃のお墓？

車や電化製品などのデザインが時代とともに変わっていくように、一見同じように見える土器でも、時代によって少しずつ異なった特徴をもっています。奥山１号墳の周りの溝や石室の中からは「須恵器」と呼ばれる灰色をした土器が出土していますが、それらの形はいずれも６世紀後半に使われていた土器の特徴を示しています。これによって、奥山１号墳が６世紀後半（古墳時代後期）の古墳であることがわかります。




土器の形の遷り変わり

### ほかに何か出土したの？

盗掘や竹林の造成によって石室の大半が壊されており、副葬品の多くもその際に失われたものと思われます。しかし石室の床面からは、土師器・須恵器と呼ばれる土器のほかに、先にも記した金銅製の耳環や馬具の一部、大刀の鍔、鉄鉾（突き刺す武器）、鉄鏃（やじり）、玉類などが出土しています。

### 誰のお墓？

古墳の大きさや副葬品の豪華さなどから、この地域の有力者とその家族の墓であったろうと思われますが、残念ながらこの時期のお墓からは名前を記したものが出土しないため、誰のお墓なのかは特定できません。

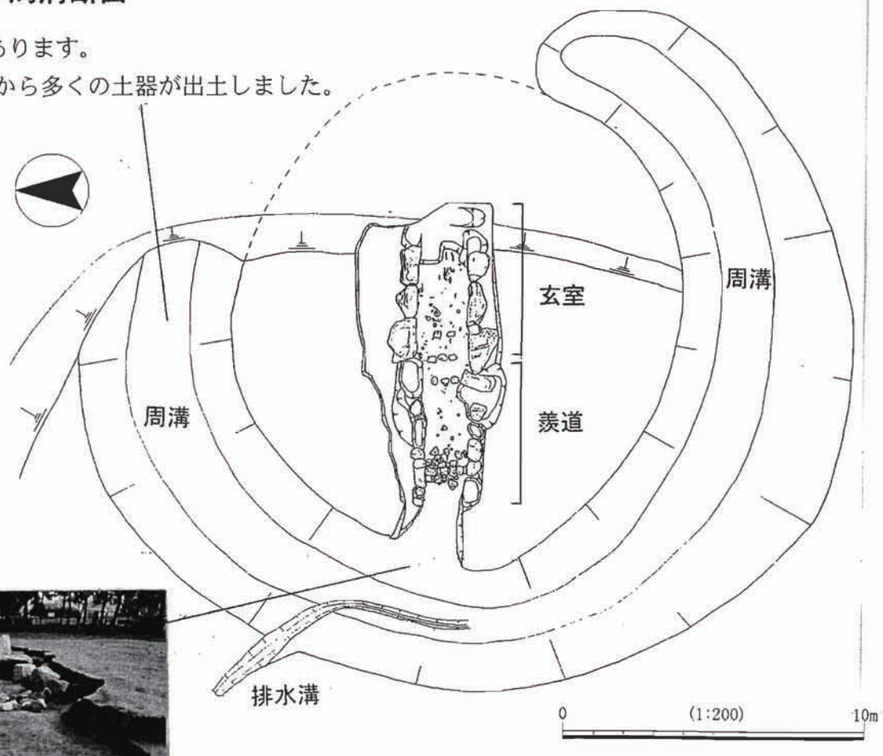
## まとめ

これまで寝屋川市内で横穴式石室といえば、奥山１号墳の東約 400m の地点に位置する寝屋古墳が知られているだけでした。しかし奥山１号墳が寝屋古墳と同じ丘陵上から発見されたことにより、この２つの古墳以外にも、打上川右岸の丘陵上には、横穴式石室を埋葬施設とする６世紀後半の古墳が築かれていた可能性が出てきました。

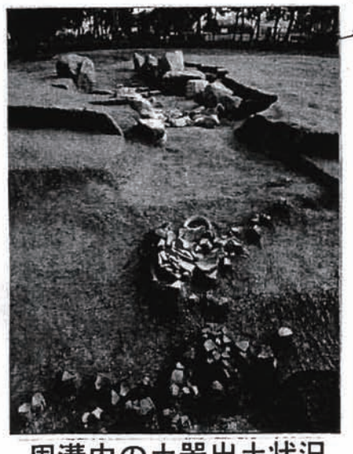
周溝断面

奥山１号墳全景

深さは約 1.2mあります。
底の黒い土の中から多くの土器が出土しました。

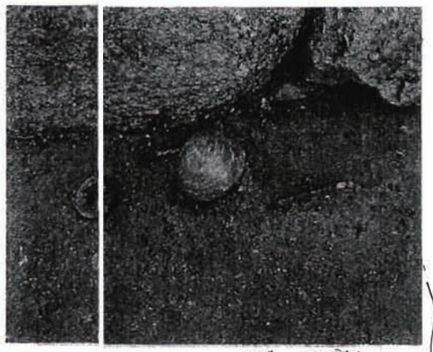



奥山１号墳平面図

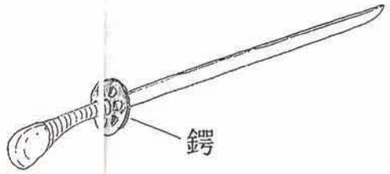


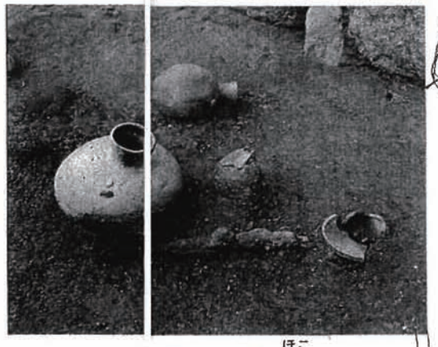
周溝内の土器出土状況

周溝からは石室からかき出されたような
状態で土器が出土しています。



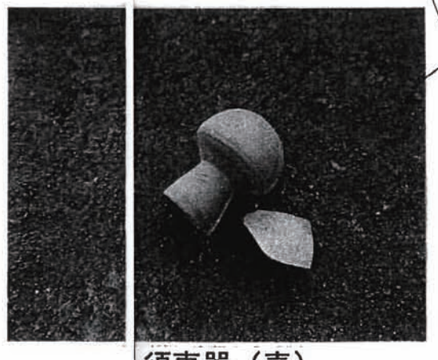
須恵器（壺）・鍔（つば）・鉄鏃（てつぞく）



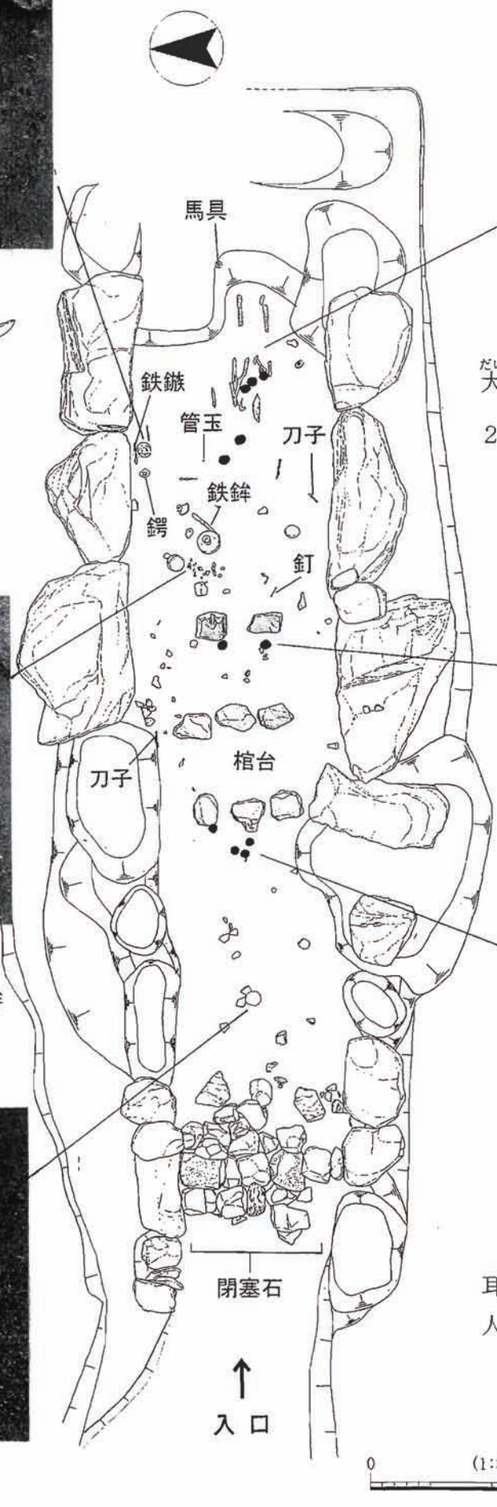



須恵器・鉄鉾（ほこ）

提瓶（さげべ）（奥の須恵器）・平瓶（ひらか）とともに鉄鉾
（手前の鉄製品）が出土しました。



須恵器（壺）

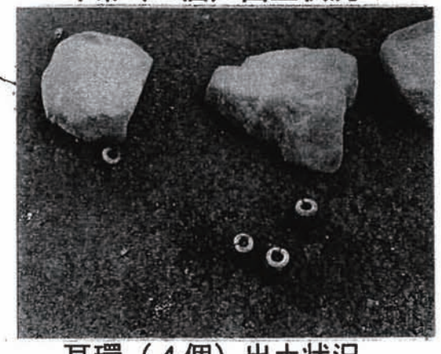



石室平面図

人骨・耳環（5個）出土状況

大腿骨（だいたいこつ）あるいは脛骨（けいこつ）（足の骨）が少なくとも
２人分はあるようです。

耳環（２個）出土状況



耳環（４個）出土状況

耳環（耳飾り）の出土位置がおそらく葬られた
人の頭の位置だったと思われます。